

大学の世界展開力強化事業 派遣報告書

報告日：2014年6月4日

機械制御システム専攻

修士2年 加藤 万裕

留学期間：2013年8月20日～2014年5月13日

1. 留学先大学の概要

派遣先大学：ジョージア工科大学

学 生 数：21,557人(2012)

ジョージア工科大学（英語: Georgia Institute of Technology）は、ジョージア州アトランタに本部を置くアメリカ合衆国の州立大学である。1885年に設置された。通称は Georgia Tech（ジョージアテック）。アメリカ有数の名門工科大学の1つであり、過去9年間において常に州立大学トップ10にランキングされている。特に工学部の評価は高く、大学は全米5位、大学院は4位にそれぞれランキングされている。特筆すべきは産業工学（1位）、航空工学（4位）、生物医用工学（2位）、土木工学（6位）などである。卒業生の中で最も著名なのは、合衆国第39代大統領でありノーベル平和賞受賞者でもあるジミー・カーターであろう。他にも歴代の宇宙飛行士やNASA関係者をはじめ、財界にも有力な卒業生が数多く存在する。(Wikipediaより抜粋)

2. 留学前の準備

卒業時期・留学時期の選択肢として、2学期分の留学で卒業を1年延ばすか、2学期分または1学期分留学して卒業を延ばさないというものがあるとおもうのだが、私の場合は、始めから卒業を1年延ばすことは決めていた。

2学期分留学して卒業を延ばさなければ就職活動に支障がでるのは分かりきっている。しかし1学期分の留学がどのくらい短いかは、1度学部で留学経験があるので知っている。2学期分あれば、卒論程度の期間はある。そして何より、1年卒業を延ばすことで起こるデメリットがあまり思い付かなかった。2学期分留学できて、かつ就職活動でも損をしないのならばと思い、卒業を1年延ばすことに決めた。

語学に関しては、GREのスコアの提出が必要だったので、その準備が一番大変だった。事前にスコアが取れていれば良かったのだが、そのために勉強しなければならない時期が卒論の提出時期とかぶってしまったため、余計に大変だった。

留学先の研究室は、東工大での研究室の先生から紹介していただいた先生の研究室に所属させてもらった。

3. 留学中の勉学・研究

ビザの関係上、1学期あたり12単位分の授業を必ず履修申告しなければならなかったが、研究で6単位取れるよう取り計らって頂いたため、1学期あたり2コース、6単位分の授業を履修し

た。主に、専門外ではあるが研究に役立つような授業を履修した。授業は英語で、不安もあったが、授業が分かりやすく、課題が多く出て授業内容を確認する機会がたくさんあったので、専門外であっても十分理解することができた。単位認定は行う予定である。

研究は、日本とやり方が違って戸惑うことも多かった。日本だとゼミがあったり研究室旅行があったり、研究室内の結びつきは強いと思うのだが、アメリカの研究室では、日本のようなゼミもなく、ミーティングも、1対1か研究テーマごとで、同じ研究室でも部屋が違ったり、研究室のメンバー同士のつながりは日本ほど強くない印象。同じ部屋のメンバーとはよく話すが、部屋とテーマが違えば同じ研究室でも関わりはほぼなかった。

4. 留学中に行った勉学・研究以外の活動

大学内にスポーツジムがあり、学生は無料で利用できるもので、よく友人とともに利用していた。他にも友人達と週末にスノーボードに行ったり川下りをしたりした。

旅行は、長期休暇を利用して春休みにマイアミに行ったり、プログラム終了後に、グランドキャニオンやロサンゼルス、ニューヨークなどを訪れた。

また、留学期間中に採用された2ヶ月間のインターンシップに、今年の夏休みに参加する予定である。

冬休みには、Christmas International House というプログラムに参加し、アメリカ人の一般家庭に2週間ほどホームステイして、アメリカでのクリスマスや新年の過ごし方を体験することができた。

5. 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

授業ではとても課題が多く、それを消化するのに必死で、研究がおろそかになった時期があった。そのとき、アドバイザーの先生の態度が厳しく、アメリカでの研究することの厳しさを知った。そこからは辛かったが、授業では成績をキープしながら研究も進めるようにし、ある程度成果が出たときは本当に嬉しかった。

これは成長を実感したエピソードではないが、アメリカに行って自身の中で変化したことは、人生設計に関する価値観だと思う。アメリカの大学院では、人種はもちろん、学生の年齢や経験も、日本に比べてバラバラである。学部を卒業してから一度働いて、それから大学院に入る人もたくさんいる。それを見ている中で、日本のように、大学を出たら就職か大学院、新卒で仕事が見つからなければ大変、といったような枠が決まっているのは窮屈に感じたし、それ以外の選択肢がもっと増えればいいと思う。私自身は、そういう枠を気にせず、やりたいことをやりたい時期にやりたいと思う。

6. 留学費用

世界展開力の奨学金を頂き、渡航費と、初月に20万円、毎月8万円のご支援を頂いた。生活費に関しては、東京で生活するのと同じくらいだった。住居費は、寮ではあるが、光熱費とインターネットを含めて1学期あたり4,000ドルほどだった。また、保険料は12万円程度だった。

7. 留学先での住居

女子寮で、個人の部屋はあるが、キッチンとバスルームは共有だった。ルームメイトは3人で、申し込み時に、同じようなバックグラウンドがいいか、色々なバックグラウンドの方がいいか選ぶ項目があった。

渡航してから聞いたところでは、寮によっては寮の方が高いとのこと。寮の申し込みは、留学の応募時に行った。

8. 留学先での語学状況

先生方の英語はきれいで、研究室でのミーティングなど、先生とのコミュニケーションには苦勞しなかった。また、アメリカでは色々な国出身の先生がいるので、授業ではヨーロッパやインドなど、訛りのある先生も多かったが、最初の2週間~1ヶ月くらいは聞き取りにくいこともあったが、そのうち慣れた。あとは筆記体で書く先生が多く、私は筆記体があまり読めないので最初は黒板に書いてあることがよく分からなかった。

学生とのコミュニケーションには苦勞した。ネイティブはとても話すのが早く、ついていけないことも多々あったため、留学中にアメリカのドラマを見るなどしてリスニングの強化をはかった。今でもネイティブ同士の会話はついていけないこともあるが、だいぶ聞き取れるようになった。

9. 留学を希望する方へ

留学をすることで得られることは、どれも「経験してみなければわからないこと」で、なかなか説明も説得も難しい。留学には労力もそれなりに必要だが、私はそれだけの価値があると思う。

一番価値があると思うのは、自分と違うバックグラウンドを持った人と出会い、普段と違う環境に身を置けること。前者に関しては、いろいろな人生があると知ることで、自分の人生における選択も広がると思う。日本の価値観は本当に世界の一部でしかないし、知らないことは行動に起こせない。また、いつもと違う環境に身を置くことで、自分の知らない一面を発見することができると思う。

他にも語学の向上や人的ネットワークというメリットもあるし、デメリットは特に思い付かない。大変ではあるが、何かを手に入れようとするれば努力は不可欠だと思うので、もっともっと留学という選択肢が身近になればいいと願っている。